

令和5年度
学校巡回公演事業

聴いて納得、観て楽しい、三味線ワールド
三味線ナビ



プログラム

- 1 三味線を比べてみよう！
- 2 沖縄の三線演奏「かぎやで風節」ほか
山内 真貴子
下地 彩香
- 3 義太夫三味線演奏『世三間堂棟由来』ほか
鶴澤 津賀榮
鶴澤 賀寿
- 4 長唄三味線演奏「勸進帳」ほか
芳村 伊十治郎
杵屋 五助 / 今藤 龍市郎
- 5 〈三味線にチャレンジ〉体験発表コーナー
- 6 津軽三味線演奏「津軽じよんから節」ほか
通安 由佳
金田 一公美
- 7 三味線に合わせて！
- 8 三味線合奏！ ファイナル演奏



「学校巡回公演事業」
小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



スタッフ

- 企画／構成 小野木豊昭（古典空間）
- 舞台監督／舞台 Whoopee Connection
- 制作 （有）古典空間

知っていますか？
10月1日は、「国際音楽の日」です。
1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることをしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

[中国→沖縄→日本]・・・海を渡って日本に伝わった3本弦の楽器が「三味線」と姿を変え

やがて箏や琵琶などと並んで、日本を代表する楽器となりました。

「三味線」は、日本文化のルーツや多様性など、そのすばらしさを教えてくれるのです！

三味線にはいろいろな種類があります。

棹の太さや胴の大きさにより太棹三味線、中棹三味線、細棹三味線の3種類にわけられ、さらに演奏される音楽のジャンルによって材質や構造、さらに演奏法が異なります。バチや駒などもすべて違い、各三味線の音色や音楽性の特徴となって表れます。

さまざまな三味線のバチ



沖縄が“琉球”と呼ばれていた時代、1400年頃以降に中国から伝えられました。胴にはニシキヘビの皮が張られ、棹は黒檀と呼ばれるとても固い木が使われ、その上に漆が塗られています。右手の人差し指にバチをはめて(水牛の角や象牙などでできているツメ)音を出します。また歌と三味線は一体で三味線を演奏する人は歌も歌います。

三線

義太夫三味線



大阪で生まれた人形浄瑠璃・文楽に代表される伝統的な人形芝居の「ナレーター役」として、様々な登場人物の心情や情景を語るのが義太夫節です。語り役の太夫とペアで演奏するのが基本です。三味線は太棹で、太棹らしい重量感と迫力のある音色は、太夫の語る太く大きな声とマッチします。

※本公演は三味線のみ演奏です

三味線の世界に
ようこそ！

長唄三味線

津軽三味線

歌舞伎を支える音楽を代表するのが長唄です。唄と三味線により、芝居を彩るさまざまな音楽を演奏します。用いられる三味線は細棹で、明るくリズムカルな曲からしっとりとした曲までさまざまな音楽を、複数で演奏するスタイルが基本です。



※本公演は三味線のみ演奏です



青森県津軽地方で民謡の伴奏などに使われる三味線です。最近では歌を伴わず、三味線だけで即興(アドリブ)演奏をするスタイルが注目されています。高速の力強いバチ使いと左手の「ハジキ」という演奏技法が特徴です。

